株式会社秀和システム様向け

仕様書の基本と仕組みシステム

概要設計書  
顧客データ制御機構

第1.0版

|  |  |
| --- | --- |
| 版数 | 1.0 |
| 承認者 | ムーンマイル・ソリューションズ　増田智明 |
| 作成者 | ムーンマイル・ソリューションズ　増田智明 |

改版履歴

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 版数 | 改版概要 | 改版日 | 改版者 |
| 1.0 | 新規作成 |  | 増田智明 |

目次

[1. はじめに 1](#_Toc331677623)

[2. 概要 2](#_Toc331677624)

[3. 外部設計 3](#_Toc331677625)

[1.1. 顧客データ制限処理 3](#_Toc331677626)

[1.2. セキュリティエラー処理 3](#_Toc331677627)

[1.3. データベースアクセス処理 3](#_Toc331677628)

# はじめに

概要設計書のまえがきを書く。

先行するシステム概要仕様書、システム構造設計書や、他の概要設計書を列記する。

システムが大きい場合は、概要設計書を適度に分割する。

# 概要

本概要設計書の概要を記述する。

基本設計やシステム概要設計を基に、概要設計を行います。この段階では、主にシステムの構造に焦点を当てます。概要設計は詳細設計とセットで考えられ、システムを構成するコンポーネントやクラス単位、またはドメイン領域ごとに設計を区切ることで、作成が容易になります。このプロセスでは、システム全体の枠組みと主要な構成要素を定義し、全体のビジョンと方向性を明確にします。細かい動作や具体的な実装の詳細は、この段階では触れず、後続の詳細設計で詳細に記述します。概要設計によって設けられた大枠と指針は、詳細設計での具体的な実装に向けての基盤となり、一貫性と整合性のあるシステム開発を支援します。

# 外部設計

概要に従い、各処理の機能を記述する。

必要であれば、別途、詳細設計書で細かく記述する。

## 顧客データ制限処理

## セキュリティエラー処理

## データベースアクセス処理

詳細設計を効率的かつ正確に行うためには、事前に項目を適切に分類しておくことが重要です。この分類は、設計を行う際の指針となり、各項目をより具体的かつシステマティックに落とし込むのに役立ちます。分類を行うことにより、設計プロセスが整理され、各機能やコンポーネントが明確に識別されます。これによって、設計作業の効率が向上し、設計ミスのリスクが低減されます。また、将来のメンテナンスや機能追加時にも、この初期の分類作業が効果的なガイドラインとなります。詳細設計に先立ち、項目の分類を行うことは、一貫性のある高品質なシステム開発を実現するための重要なステップです。